
いまひとつびの

桜華蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いまひとつたびの

【Zマーク】

Z855FD

【作者名】

桜華蒼

【あらすじ】

哀ちゃんと怪盗キッド。ちょっとホワイトデー。哀ちゃんは怪盗キッドの正体は知らないけれど、黒羽くんは知っています。な話。飛びかう寒いセリフに注目です（笑）

「ひとはワガママですね」

ふう、と片眼鏡の端に少女をとりえて、白い怪盗は顔を上げた。
「幾千の想いを向けられても満たされない」

そして続ける。

「私が望むものは、あなた」

ベルランダで迎えた、緋色の髪の少女は、透き通る青い瞳で冷たく微笑う。

「下手な誘い文句ね」

少女——灰原哀が、白い怪盗——怪盗キッドに会ったのは、月の明るい公園だつた。ひとり、肩を震わせてベンチに掛ける哀の傍らに何処からか現れて

「泣かないでください」と白いバラを差し出したのだ。

「あなたの涙は、このバラにさえ哀しみを移してしまっから」と。
驚き、涙を拭うのも忘れ哀が顔を上げた拍子に、つと一滴落ちた涙が、バラに触れると、バラは紺色に染まっていく。

「だから、笑ってください」

そう笑つたキッドは、少し寂しげで。

「こうやって」

それも一瞬。頬をトンと指で弾き綺麗に笑うキッドにつられて、柄にもなく笑顔らしきものを作つてみた。けれど。

「キャラじやないわ。……あなたの笑顔、綺麗ね」

すぐさま俯いた哀は、自分のぎこちない笑顔を浮かべて、苦笑する。

「田を逸らすクセがあるのですね」

そつと顎を持ち上げる手を振り払わざられるがまま、哀はキッド

を見据える。

「あなたと田が合つたのは、今だけ。私はあなたからただの一度も田を逸らしていないの。」「たー

「……子供を慰めてるような言葉には聞こえないわ」「まさか」

キッドは、大げさに言つて顔を近付ける。

互いの息がかかりそうな程に近く。

「口説いてますから」

田を見開く哀の髪に触れると、顎から手を離し、

「あなたの笑顔も綺麗でしたよ」

そう言つて、哀の田の前で握り拳を開く。

手のなかには真白のバラ。

「笑顔とはこういったものです」

ふふ、と出し惜しみのない笑顔でキッドは楽しげに、ポンポンとバラを出してみせる。白、ピンク、オレンジ、黄色、まだら。

「最後に残るのが私の気持ちです」

パチンとキッドは指をならす。

哀の膝を埋めていたバラは搔き消えた。

「ではまた」

とうやうやしく一礼し、キッドは哀の背中に回つた。

その背を哀は田で追わなかつた。

哀は、髪に手を伸ばし、触れたものを取り上げる。

それは、息を飲むような色を称えたバラ。これ以上ないくらいの紅。

「今日は何の田か」存知でしょう?」

「あなたにチヨコレートあげた覚えはないわええ、とキッドは笑う。

「あなたと交わす言葉が私には甘いものの。欲しいとすら思いま

せん

「用件は何よ」

「お別れを」

静かに告げるキッドに、哀はきゅっと唇を結んだ。
「最後に言葉を頂きたいと訪れました」

「あいしてゐる、とでも?」

挑むような目をして、自分を見る哀にキッドは、その小さな手を取り口付ける。

「これからは日のもとであなたに会いたい」

そう言って、片眼鏡を外した。

「黒羽快斗です。以後お見知りおきを」

哀は、かつと赤く頬を染めた。

自分の僅かな動搖にキッドは気が付いたといつ証に、口元を隠してくすくす笑っている。

「よろしくね、哀ちゃん」

片眼鏡を外した青年は哀の良く知る人物だった。

小泉紅子を通じて、多少なりとも会話をしたことがある。会うなり、握手を求められ、変な人として哀の中に存在していた。

「とんだ、お返しね」

「ほら、ホワイトデーは二倍返しが相場だから」

義理チョコの一つを渡していくことを思い出した哀は

「だつたら……」

と言いかけた。

「ん? ね、怒った?」

「呆れただけ」

「でも、今なにか……」

「何でもないわよ

バレンタインデーに教えてくれたら良かつたのに。

そんな言葉が出そうになつた。

一人顔を赤くした哀を快斗は不思議そつに、優しく見つめていた。

E
N
D

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8557d/>

いまひとたびの

2010年10月10日02時53分発行